※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０２４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学)日本史演習①	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	山川出版社「詳説日本史」						
副教材等	帝国書院「図説日本史通覧」　啓隆社「新日本史研究ノート応用編」 山川出版社「日本史用語集」						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸に対しての感覚を養ってもらいたい。
・歴史的事象に「なぜ」という視点を持ってもらいたい。
・歴史を背景とした世界各国の諸事情を踏まえ、日本の在り方について考察を深めてもらいたい。

２　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせるとともに、課題発見・解決活動を通して、広い視野に立ち､国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
（１）世界史的な視野に立ちながら、日本の歴史を国際環境と関係づけながら考察する。
（２）諸資料をもとに歴史事象についての考察を深める。
（３）時代的背景として政治、経済、文化、対外関係など総合的な歴史的思考力を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	開国以前と以後の日本を比較し、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を国際環境と関連して考えることができている。	近現代史を中心とする日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する公民としての責務を果たそうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第11章　近世から近代へ	第１節　開国とその影響 ①開国の衝撃を契機とした幕府の対外政策の変容と、締結された条約の不平等性について考察する。 ②貿易の実態と、国内におよんだ影響からくる経済の混乱について考察する。	a：条約や貿易開始に関する諸資料から適切に情報を読み取り、幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯や、貿易の影響などを理解している。 b：欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化に着目し、日本の政治や経済などの変化を多面的及び多角的に考察し、表現している。 c：日本の開国に関わる諸事象を、国内外の視点から考察し、開国のもたらす様々な影響について主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート
		第２節　幕府の滅亡と新政府の発足 ①討幕派の形成から新政府の発足に至るまでの過程を理解し、明治新政府による中央集権体制の確立過程について考察する。	a:政治・経済の変化などに着目し、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊から新政府の成立に至るまでの過程を理解している。 b:日本がどのように近代の国家・社会へと向かっていくか、時代を通観する問いを表現している。 c:幕末の政治動乱の過程を多面的かつ多角的に考察することを通じて、近代へのつながりを主体的に見出そうとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 提出ノート

※令和４年度以降入学生用

	第12章 近代国家の成立	第１節　明治維新 ①明治維新の諸政策に関し、政治・外交・社会経済の観点から日本の近代化の特徴について考察する。 ②欧米文化の模倣、思想の導入や日本の近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論による闘争への転換を理解する。 ③明治初期の外交政策から、対欧米外交と、対東アジア外交の違いについて考察する。	a：明治政府による近代化政策について、諸資料から情報を読み取って理解している。 b：諸制度の改革による市民生活の変化や、諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想や文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c：明治維新や文明開化が展開する中で生じた様々な課題や、近代化政策の展開における課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 提出ノート
		第２節　立憲国家の成立 ①自由民権運動の内容を理解し、民衆意識の変化、また運動の移り変わりや地域社会の変化について考察する。 ②大日本帝国憲法制定の意義や憲法の特徴を、多角的に考察する。	a：地域社会の変化につい諸資料から読み取り、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至るまでの過程を理解している。 b：社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：自由民権運動の展開過程を考察し、そのうえで日本における立憲政治の導入による課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 ノート提出
	第13章 近代国家の展開と国際関	第１節　大陸政策の展開 ①条約改正交渉の経緯と国内世論の動向が国民の大きな関心を集めた背景と、条約改正が実現した諸条件について考察する。 ②日清戦争に至る経緯及び過程と結果が国民におよぼした影響について考察する。 ③日英同盟から日露戦争に至る経緯、戦後の日本の国際的地位の変化と対外進出について、その問題点とともに考察する。	a：条約改正交渉の成否、条約改正の実現、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 b：議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、表現している。 c：対外的な戦争が日本の近代化の過程においてどのよう	定期考査	定期考査 提出課題	 提出課題 ノート提出

※令和４年度以降入学生用

	係		な意味を持ったか考察し、主体的に追究しようとしている。			
		第2節　第一次世界大戦と日本 ①第一次世界大戦前後の国際関係について、日本に対する各国の反応とその後の展開について考察する。 ②大正政変、大正デモクラシーと本格的な政党内閣の成立の経緯を理解し、国民の政治参加の拡大について多角的に考察する。	a: 第一次世界大戦前後の国民の政治参加に着目して、大正政変から政党内閣の成立について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 b: 大戦中の日本の動向を踏まえ、アジアや欧米諸国との関係の変容の是非を多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、国際協調体制へのつながりを追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 ノート提出
		第３節　ワシントン体制 ①ヴェルサイユ体制と、ワシントン体制の内容を捉え、国際協調の動きを理解し、そのなかで日本の外交政策がどのように展開されたか考察する。 ②大戦景気後に続いた不況のなかで社会運動が高揚し、普選運動など政党政治の発展から二大政党による「憲政の常道」に至るまでの意義について考察する。	a: ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や東アジアの民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 b: 大戦後に国民の権利拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 東アジア及び太平洋地域における国際協調体制を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出課題	提出課題 ノート提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度